



HP Operations Manager i

ソフトウェア・バージョン: 10.00

リリース・ノート

ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

AMD および AMD Arrow ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Citrix® および XenDesktop® は Citrix Systems, Inc. およびその 1 つ以上の子会社の登録商標で、米国およびその他の国の特許商標庁に登録されている可能性があります。

Google™ および Google Maps™ は、Google Inc. の商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium®, Intel® Xeon®, および Lync® は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Linux® は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Microsoft[®]、Windows[®]、Windows NT[®]、Windows[®] XP、および Windows Vista[®] は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Red Hat[®] は、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

UNIX[®] は The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別番号が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトでは、HP Passport アカウントが必要です。アカウントがない場合は、HP Passport の [サインイン] ページで [Create an account] ボタンをクリックしてください。

サポート

次の HP ソフトウェアのサポート Web サイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hp.com>

連絡先情報と、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をごいただけます。

HP ソフトウェア・サポートではセルフ・ソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェア・サポート Web サイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート・ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア・カスタマーとの意見交換
- ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、 <https://softwaresupport.hp.com> にアクセスし、 [登録] をクリックしてください。

アクセス・レベルに関する詳細は、以下の Web サイトにアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions& 統合およびベスト・プラクティス

HP ソフトウェア・カタログの製品の連携方法、情報交換の方法、ビジネス・ニーズの解決方法を調べるには、HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) にアクセスしてください。

さまざまなベスト・プラクティスのドキュメントや資料を入手するには、Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) にアクセスしてください。

コンテンツ

ご注意	2
保証	2
権利の制限	2
著作権について	2
商標について	2
Operations Manager i リリース・ノート	6
このリリースの新機能	7
インストールに関する最新情報	7
ユーザ・エクスペリエンス	7
レジリエンス	8
エージェント管理	9
ポリシー管理	10
外部命令	12
オペレーション・ブリッジ	12
コンテンツ管理	13
プラットフォームのサポート	14
BSM-APM 9.25 との統合	15
BSM Connector	15
ドキュメント	16
このリリースで変更された機能	18
インストール	19
注意事項と制限事項	20
ドキュメントの更新情報	27
ドキュメントの正誤表	27

ローカリゼーション	29
ドキュメントのフィードバックの送信	31

Operations Manager i リリース・ノート

ソフトウェア・バージョン : 10.00

発行日 : 2015 年 1 月 (英語版)

本書は、Operations Manager i (OMi) に加えられた変更点の概要です。

本書では、次の内容について説明します。

"このリリースの新機能" 次のページ

"インストール" ページ 19

"注意事項と制限事項" ページ 20

"ドキュメントの正誤表" ページ 27

サポート・マトリックス

サポート対象環境やほかの製品との互換性については、Operations Manager i サポート・マトリックスを参照してください。サポート・マトリックスはリリースの公開前後に更新される場合があります、次の HP サポート Web サイトでのみ入手できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM323488>

このリリースの新機能

インストールに関する最新情報

- **製品のインストールと設定の簡素化** : インストールおよび設定のウィザードのデザインが見直され、インストールと設定をより素早く簡単に行えるようになりました。今回設定ウィザードに導入された高速設定オプションでは、組み込み PostgreSQL データベースをインストールできます。その他すべての設定オプションでは標準設定値が使用されます。

OMi 製品のインストールでは Monitoring Automation もインストールされます。また、OMi 10.00 に統合されたユーザ・エンゲージメントも必要に応じてインストールできます。さらに、OMi 管理パックのインストールを選択することも可能です。

インストール用ドキュメントは対話型で利用できるようになりました。インストールまたはアップグレードの方法を選択した後、その方法の手順のみが表示されます。詳細については、[『OMi インストールとアップグレード・ガイド』](#)を参照してください。

- **PostgreSQL データベースのサポート** : OMi 10.00 では、小規模環境向けに組み込み PostgreSQL データベースをインストールできるため、単体サーバ・デプロイメントを実現できます。

大規模なデプロイメントの場合でも、PostgreSQL データベースを個別にインストールする複数サーバ・デプロイメントがサポートされています。詳細については、[『OMi Database Guide』](#)を参照してください。

- **BSM 9.24 以降からのアップグレード** : BSM 9.24 以降から OMi 10.00 にアップグレードできます。インプレイス・アップグレードとサイドバイサイド・アップグレードの両方がサポートされています。このアップグレードでは、ダウンタイムを最小限に抑えながらすべてのデータを移行できます。詳細については、[『OMi インストールとアップグレード・ガイド』](#)を参照してください。

ユーザ・エクスペリエンス

- **UI の操作性の向上** : OMi 10.00 の UI に Web ブラウザのナビゲーション機能が採用され、「進む」と「戻る」の操作、ブックマーク、履歴、更新、全画面表示などの機能を使用できるようになりました。操作に使用する UI が新しくなり、外観が変わっています。OMi 10.00 のメニューは編成し直されて簡素化され、特定のメニュー項目を検索できるようになっています。ユーザが選択した内容が記録されるので、スムーズに操作できます。UI は複数のタブで開くことができるため、

別々の UI で結果を比較できます。

OMi オンライン・ヘルプの [【ユーザガイド】](#) > [【はじめに】](#) > [【OMi のナビゲーションおよび使用】](#) も参照してください。

- **OMi 探索** : 事前に定義されたパスに従って、OMi のさまざまな機能を順に試していきながら学習できる、対話型の探索マップが導入されました。このマップは、対話型のチュートリアルから始まります。各手順には、組み込み情報や、追加リソース（関連 UI ページ、オンライン・ヘルプ、ビデオなど）へのリンクが含まれています。OMi 探索では、すでにアクセスしたエリアがわかるように進捗状況が追跡され、学習の早道や高度なトピックが表示されます。使い方は簡単で、一目でわかる組み込みのヘルプも利用できます。

OMi オンライン・ヘルプの [【ユーザガイド】](#) > [【マイワークスペース】](#) > [【【マイワークスペース】を使用した環境の監視】](#) > [【定義済みページ】](#) および OMi 10.00 の [【ワークスペース】](#) > [【操作コンソール】](#) > [【OMi 探索】](#) も参照してください。

- **ユーザ管理：ロールと権限** : OMi 10.00 では、ユーザ・ロールに権限を割り当てて、さらにそのロールを個々のユーザまたはユーザ・グループに割り当てることができます。そのため、ユーザまたはグループに直接権限を割り当てる際の煩わしさや複雑さが軽減されます。

[【ユーザ】](#)、[【グループ】](#)、[【ロール】](#) の UI では、画面の指示に沿ってユーザ管理ワークフローを進めることができます。OMi オンライン・ヘルプの [【管理ガイド】](#) > [【ユーザ】](#) > [【ユーザ、グループ、およびロール】](#) も参照してください。

- **マイ・ワークスペース** : OMi 10.00 では、MyBSM は「マイ・ワークスペース」という名前に変わりましたが、提供する機能に変更はありません。サービス状況コンポーネントには、RTSM ビュー、イベント・ブラウザ、APM データが OMi コンソールと緊密に統合されて表示されます。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの [【ユーザガイド】](#) > [【マイワークスペース】](#) を参照してください。

レジリエンス

- **状況チェック** : OMi デプロイメントでは、エージェントが正常に実行されているかどうか、およびサーバとエージェントが相互に通信できているかどうかをチェックすることが重要です。ほかの管理システム（HP BSM Connector や HP SiteScope など）からのデータの統合を容易にするエージェントのインストールでは、このことが特に重要になります。こうしたシステムでエージェントに障害が発生した場合、統合からのイベント・フローも停止します。

標準設定では、OMi によるモニタ対象であるすべてのエージェントに対し、（エージェントとサーバの）状況チェックが有効になっています。また、エージェントは標準設定で、プライマ

リ・マネージャにのみハートビート・イベントを送信します。OMi は、HP BSM Connector および HP SiteScope に接続されたサーバの状況もチェックできます。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの **【管理ガイド】 > 【セットアップと保守】 > 【モニタ対象ノード】 > 【状況チェックの設定】** を参照してください。

- **OMi デプロイメントの自己モニタリング** : OMi 10.00 では、OMi 自己モニタリング機能がサポートされるようになりました。効率的な運用を確保するため、OMi では、OMi コンポーネントの状況を追跡して問題を報告し、修正または予防のための措置を取ることができるようにしています。

新しい **【OMi Health Status】** の UI ページには、OMi 自己モニタリング対象のコンポーネントの状況ステータス、関連するイベントのリストのほか、選択したオブジェクトの状況ステータスが関連オブジェクトの状況にどのように影響するかが表示されます。新たに標準設定となった OMi サーバ自己モニタリング管理パックには、管理テンプレート、および OMi コンポーネントや OMi プロセスごとの可用性、ステータス、パフォーマンスのモニタリング機能が含まれています。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの **【ユーザガイド】 > 【操作コンソール】 > 【OMi 状況ステータス】** および **【管理ガイド】 > 【管理パック】 > 【OMi サーバ自己モニタリング用管理パック】** を参照してください。

- **エージェントの自己モニタリング** : OMi 10.00 では、OMi 状況モデルと統合した機能として、エージェントの問題について参考になるエラー・メッセージや事前通知が表示されます。

エージェント管理

- **リモート・エージェントでの一括操作** : opr-agt コマンドライン・インタフェースを使用すると、1つ以上の HP Operations Agent の管理、設定を同時に行うことができます。ステータスの取得、エージェントの開始、再起動、停止、エージェントの構成変数の取得または設定、プライマリ・マネージャの切り替え、構成のデプロイなどのオプションを利用できます。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの **【管理ガイド】 > 【モニタリング】 > 【コマンドライン インタフェース】 > 【opr-agt コマンドライン インタフェース】** を参照してください。

- **エージェントのパッチおよびホットフィックスのデプロイメント** : OMi 10.00 では、モニタ対象ノードに現在インストールされている HP Operations Agent にホットフィックス、パッチ、または新しいベース・バージョンを適用して更新することが可能です。エージェント・パッケージをサーバにインストールするには、opr-package-manager コマンドライン・インタフェースを使用します。エージェントを更新するには、**【モニタ対象ノード】** の UI を使用します。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの **【管理ガイド】 > 【セットアップと保守】 > 【モニタ対象ノード】 > 【OMi への HP Operations Agent の接続】 > 【HP Operations Agent インストールの更新】** を参照してください。

- **OM から OMi への HP Operations Agent の切り替え** : OMi 10.00 では、HP Operations Agent 管理を OMi サーバに切り替えることができます。この機能は、同じ HP Operations Agent を複数のサーバ（たとえば、HPOM 管理サーバと OMi サーバ）で管理する環境で役立ちます。この切り替えを実行するには、OMi サーバで opr-agt コマンドライン・インタフェースの -switch_manager オプションを実行します。エージェント管理の切り替え後、状況チェックおよびライセンス関連の情報がすべて OMi サーバに転送、格納され、OMi サーバがエージェントのプライマリ・マネージャとして機能するようになります。さらに、この新しいプライマリ・マネージャがエージェントの状況チェックを実行し、すべての新規証明書要求を受け取ります。

また、opr-agt コマンドライン・ツールの -deploy -clean オプションを使用して、HP Operations Agent からすべてのポリシーを完全に削除することもできます。削除操作後は、ほかのサーバはエージェントにアクセスできなくなり、エージェントにはほかのサーバからデプロイされたポリシーが存在しなくなります。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの **【管理ガイド】 > 【モニタリング】 > 【コマンドライン インタフェース】 > 【opr-agt コマンドライン インタフェース】** および **【管理ガイド】 > 【セットアップと保守】 > 【モニタ対象ノード】 > 【OMi への HP Operations Agent の接続】 > 【既存の HP Operations Agent インストールの接続】** を参照してください。

- **HTTPS 通信の設定** : 『OMi 管理ガイド』およびオンライン・ヘルプに、サーバとエージェントの間にファイアウォールが設置されている場合の HTTPS 通信の設定に関する項が追加されました。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの **【管理ガイド】 > 【セットアップと保守】 > 【モニタ対象ノード】 > 【HTTPS 通信の設定】** を参照してください。

ポリシー管理

- **ポリシー・テンプレートをテンプレート・グループから追加可能に** : OMi 10.00 では、ポリシー・テンプレートを、フラットなリストからだけでなくテンプレート・グループからも追加できます。そのため、割り当てようとするポリシー・テンプレートをこれまでよりすばやく検索できるようになります。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの **【管理ガイド】 > 【モニタリング】 > 【管理テンプレートおよびアスペクト】 > 【アスペクトの設定】** を参照してください。

- **割り当ての更新** : 新しいバージョンの管理テンプレート、アスペクト、またはポリシー・テンプレートが存在する場合は、新しいバージョンまたは最新バージョンの割り当て項目が含まれるように、関連する割り当ておよび自動割り当てルールを更新できます。さらに、更新が必要な項目のリストを表示するように選択することで、最新バージョンの割り当て項目を含まないため更新が必要な可能性のあるすべての割り当て / 自動割り当てルールの概要を取得できます。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの【管理ガイド】 > 【モニタリング】 > 【割り当ておよび調整】 および【管理ガイド】 > 【モニタリング】 > 【自動割り当てルール】 を参照してください。

- **ボトムアップ式のポリシー更新** : ポリシー・テンプレートまたはアスペクトの新しいバージョンが存在する場合、関連する管理テンプレートおよびアスペクトを最新バージョンに更新できます。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの【管理ガイド】 > 【モニタリング】 > 【ポリシーテンプレート】 および【管理ガイド】 > 【モニタリング】 > 【管理テンプレートおよびアスペクト】 を参照してください。

- **HPOM でのカスタム・インストルメンテーション・ファイル・ツリーの MA サポート** : OMi 10.00 では、opccfgdwn コマンドを使用して、UNIX の HPOM から構成データをインポートできるようになりました。このコマンドでは、構成データの一部をダウンロード対象として選択し、ファイル・システムのフラット・ファイルに保存できます。ダウンロードした構成データは、ConfigExchange コマンドライン・インターフェースを使用して、OMi サーバにコピーし、アップロードすることが可能です。

さらに、opccfgdwn をダウンロード・ユーティリティとして使用した場合、HPOM for UNIX 8.x 形式のインストルメンテーション・データは、アップロード時に OMi と互換性のある形式に自動で変換されます。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの【管理ガイド】 > 【モニタリング】 > 【構成データの移行】 > 【HP Operations Manager からの構成データのインポート】 を参照してください。

- **複数ノードへの MA インストルメンテーションの再デプロイメント** : OMi 10.00 では、opr-jobs コマンドライン・インターフェースを使用して、停止または失敗したデプロイメント・ジョブを再起動したり、一覧表示したりできます。これをインフラストラクチャ設定の【停止したデプロイメントジョブを作成します】と組み合わせることで、保守期間中のデプロイメント・ジョブの実行を自動化できます。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの【管理ガイド】 > 【モニタリング】 > 【デプロイメントジョブ】 および【管理ガイド】 > 【モニタリング】 > 【コマンドラインインターフェース】 > 【opr-jobs コマンドラインインターフェース】 を参照してください。

OMi 10.00 では、構成全体をデプロイし直すか、またはモニタ対象ノードにまだ転送されていない構成のみをデプロイする（差分デプロイメントを実行する）かを選択できます。詳細については、OMi オンライン・ヘルプの【管理ガイド】 > 【セットアップと保守】 > 【モニタ対象ノード】 を参照してください。

- **追加機能とユーザビリティの強化** : OMi 10.00 では、Monitoring Automation の機能を強化し、ポリシー、アスペクト、管理テンプレートの継続的な保守を簡素化したのに加え、以下のような点で使いやすさを向上させています。

- ポリシー / 割り当ての更新ワークフローの向上
- 複数ノードへのインストルメンテーションの再デプロイメント
- コンテンツ・パックの管理 UI の改良
- パフォーマンスおよび拡張性の向上

外部命令

- **外部命令** : OMi 10.00 では、外部の命令インタフェース（ナレッジ・ベース、データベース、Web ページなどの外部ソース）により生成された命令を取得できるようになりました。

新しい【外部命令】の UI ページでは、命令を取得するための Groovy スクリプトの作成とアクティブ化ができます。このスクリプトが命令インタフェースを呼び出して、特定のイベント用の命令テキストを取得します。外部命令向けのオプションは、ポリシー・エディタで設定します。ポリシーがデプロイされて、外部命令を含む（または外部命令を参照する）特定のイベントが発生すると、この Groovy スクリプトが実行されます。イベント関連の命令はイベント・ブラウザで確認できます。命令は、ハイパーリンクを含むプレーン・テキストまたは HTML で出力可能です。

OMi では、サンプルの命令取得スクリプトおよび外部命令インタフェース用フィルタが含まれる、事前定義されたコンテンツ・パックを提供しています。

詳細については、OMi オンライン・ヘルプの【管理ガイド】 > 【操作コンソール】 > 【外部命令】 および【拡張性ガイド】 > 【Groovy スクリプト】 > 【スクリプトの開発およびデプロイメント】 > 【外部命令取得スクリプト】を参照してください。

オペレーション・ブリッジ

- **拡張性の向上** : OMi では、実行時サービス・モデル（RTSM）の 1,000 万の構成アイテム（CI）および 2,000 万のステータス付き CI をサポートできるようになりました。この RTSM は、HP Universal CMDB 10.11 がベースとなります。
- **イベント統計情報と投資収益率** : ダッシュボード・ライブラリに新しいダッシュボードが追加され、OMi でのイベント数の統計をレポートしたり、相関するイベントまたは抑制されるイベントとイベント総数をマップしたりできるようになりました。

OMi オンライン・ヘルプの【ユーザガイド】 > 【はじめに】 > 【OMi のナビゲーションおよび使用】も参照してください。

- **経過時間ごとの KPI のページおよびコンポーネント** : 経過時間ごとの KPI ダッシュボードには、各構成アイテムのステータスや、アタッチされている主要管理指標 (KPI) の各インスタンスが表示され、複数のユース・ケースに対応できます。ユーザは、選択した経過時間ごとの KPI および CI のステータスやステータス・サマリを表示できます。ダッシュボードでは、KPI ステータス・データの履歴やモニタ対象環境の状況を一目で確認できる多数のウィジェットを選択できます。

OMi オンライン・ヘルプの【ワークスペース】 > 【ダッシュボード】 > 【KPI Over Time】も参照してください。

コンテンツ管理

- **OMi コンテンツ** : OMi が提供する幅広いコンテンツを強化し、コンテンツ開発を促進できるように改良されています。
 - 管理パックの継続的な拡張
 - Connector の継続的な拡張
 - コミュニティの拡張 : 最も重要なメトリクスを扱う管理パック (MP) の数を大幅に拡大。管理パックの最新リリースは、[HP Live Network](#) でダウンロード可能。
- **コンテンツ・マネージャの HTML ベースのインポート UI** : コンテンツ・パック開発者は、作成したコンテンツを簡単に見つけることができます。
- **OMi 管理パック** : 管理パックには、OMi 用のアドオン・インフラストラクチャおよびアプリケーション監視コンテンツが用意されています。エンドツーエンドの監視ソリューションにより、IT ドメイン内の問題の検出、監視、トラブルシューティング、予測、修正ができます。

OMi10.00 には次の管理パックが含まれており、構成時にインストールできます。

- HP OMi 管理パック Apache Web サーバ版 (1.0)
- HP OMi 管理パック Hadoop 版 (1.1)
- HP OMi 管理パック IBM WebSphere Application Server 版 (1.0)
- HP OMi 管理パック Infrastructure 版 (1.1)
- HP OMi 管理パック Active Directory 版 (1.0)
- HP OMi 管理パック Microsoft Exchange Server 版 (1.0)

- HP OMi 管理パック Microsoft SQL Server 版 (1.0)
- HP OMi 管理パック Oracle Database 版 (1.1)
- HP OMi 管理パック Oracle WebLogic 版 (1.01)
- HP OMi 管理パック SAP 版 (1.0)
- HP OMi 管理パック SAP HANA 版 (1.0)
- HP OMi 管理パック SAP Sybase ASE 版 (1.0)
- HP OMi 管理パック Vertica 版 (1.0)

最新バージョンについては、[HP Live Network](#) でご確認ください。管理パックの詳細については、管理パックのドキュメントおよびリリース・ノートを参照してください（[セルフ・ソルブ技術情報](#)で入手できます）。

プラットフォームのサポート

OMi 10.00 では、新たに次のプラットフォームなどがサポートされます。

・ 管理サーバのプラットフォーム

Red Hat Enterprise Linux	7.x
--------------------------	-----

・ クライアント・ブラウザ

Web ブラウザ	Safari 7.x (Mac OS)
----------	---------------------

・ データベース (別のシステム上の外部データベース)

PostgreSQL	9.3
------------	-----

・ データベース (OMi システムの組み込みデータベース)

PostgreSQL	9.3
------------	-----

OMi 10.00 の完全なサポート・マトリックスは、次の Web サイトで入手できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM323488>

BSM-APM 9.25 との統合

- **BSM-APM 9.25 の機能** : Business Service Management (BSM) システムには、Real User Monitoring (RUM) , Business Process Monitor (BPM) , Service Level Management (SLM) などの Application Performance Management (APM) アプリケーションが含まれています。 APM 9.25 アプリケーションを OMi 10.00 と統合するには、BSM 9.25 を OMi 10.00 と統合する必要があります。この統合により提供される機能は次のとおりです。
 - APM の状況 (KPI および HI のステータス) やイベントが OMi に転送される
 - OMi のパフォーマンス・グラフに、APM システムに保存されている APM メトリクスが表示される
 - ユーザ・インタフェースのクロス起動 :APM MyBSM ユーザ・インタフェース・コンポーネントを直接 OMi 10.00 ワークスペースに統合し、詳細な APM 情報を表示できる
 - APM システムと OMi システム間でのトポロジ同期
 - ダウンタイム情報の同期

詳細については、『OMi Integrations Guide』の APM の章を参照してください。

BSM Connector

- **BSM Connector** :サードパーティのデータを OMi に統合するための優れたテクノロジーが、SHR および Operations Analytics への統合にも対応できるようになりました。BSM Connector 10.00 の特長は、アプリケーションのメモリ使用量の削減、容易になったメンテナンス、インストールと設定の簡素化、パフォーマンスの向上です。

インストールと設定の変更点の詳細については、『HP BSM Connector Installation and Upgrade Guide』を参照してください。

- **新しいメトリクス・チャンネル** :メトリクス管理が変更されました。メトリクスは BSM Connector システムに保存されるようになり、自動的に OMi に転送されなくなったため、パフォーマンスが向上します。HP BSM Connector メトリクス・ポリシーの構造が 10.00 で変更され、メトリクスの標準設定およびルールもサポートされるようになりました。そのため、属性の管理がさらに容易になります。

また、メトリクスを XML ファイルからも収集できるようになりました。

- **新しいトポロジ・チャンネル** :BSM Connector 10.00 では、XML ファイルや REST Web サービス・リ

スナからトポロジ・データを収集できるようになり、従来の各種収集方法は使用しません。ディスカバリ・スクリプトはポリシーに含まれなくなり、この処理は OMi サーバに移動しました。BSM Connector は、トポロジ・データ全体またはトポロジの変更箇所のみをいずれかを転送できるようになりました。単純なトポロジ環境からのデータの管理が簡素化されて、同期パッケージが必要となるのは複雑なトポロジの場合のみとなっています。

- **データベースからのデータ収集の向上** : BSM Connector 9.x では使用できる SQL ステートメントに制限がありましたが、BSM Connector 10.00 ではより複雑な SQL クエリを使用できるようになりました。さらに、初期値のステートメントおよびセッション変数がサポートされるため、データベースからイベントやメトリクス・データを収集する際の柔軟性が向上しています。
- **Web サービスからのデータ収集の向上** : Web サービスにアクセスするためのプロトコルを変更したため、Web サービスからのデータ収集をより簡単かつ効率的に行えるようになり、時間も短縮できます。BSM Connector 10.00 では、SOAP メッセージではなく REST プロトコルを使用するようになり、柔軟性が向上してセキュリティも強化されています。
- **ログ・ファイルからのデータ収集の向上** : BSM Connector 10.00 では、BSM Connector 9.2x のログ・ファイル・ポリシーに代わり、構造化ログ・ファイル・ポリシーが採用されています。構造化ログ・ファイル・ポリシーによって、ログ・ファイルから収集されたイベントおよびメトリクス・データの管理がより容易になります。抽出されたデータが、正規表現ではなく OM パターンマッチ言語を使用して構造化されるためです。ログ・ファイルは、ログ・ファイルの行からテキストベースのイベントの動的部分を抽出して変数に割り当てたものを、イベントの説明を作成したり別の属性を設定する際のパラメータとして使用できるように構造化されます。

ログ・ファイルの収集は、システムでローカルに実行されるのみとなっています。

アップグレード後のポリシーの変更点の詳細については、『HP BSM Connector Installation and Upgrade Guide』の「Validate the Upgraded Policies」の項を参照してください。この項を表示するには、最初のページで [Upgrade from HP BSM Connector 9.2x] オプションを選択します。

ドキュメント

OMi 10.00 のドキュメントは次のように強化されています。

- **HTML5 のオンライン・ヘルプ** : オンライン・ヘルプが HTML5 形式になり、外観が新しくなって検索機能が向上しました。検索の範囲を、ヘルプの各項（「管理」、「ユーザ」、「拡張性」、「RTSM」）に制限できます。
- **対話型の『インストールとアップグレード・ガイド』** : このガイドでは、実行するインストールまたはアップグレードのタイプを指定した後、必要な条件やタスクのみが示されるカスタム・ガイドを表示または印刷できます。

サポートされるオプションの組み合わせのみを選択できます。そのため、選択するときに、一部のオプションが表示されなかったり選択できなかったりする場合があります。詳細については、『OMi インストールとアップグレード・ガイド』を参照してください。

- **ビデオ** : OMi の使用方法を紹介するビデオが HP Videos で公開されています。これらのビデオは、HP Live Network の「[OMi Tutorials](#)」にあります。
- **UI へのリンク** : オンライン・ヘルプから UI に移動できるリンクを設置しました。ヘルプと UI が連結され、ドキュメントからすぐに OMi にアクセスできるようになりました。
- **ドキュメント・セットの再編** : ドキュメントの数を減らし、『OMi 管理ガイド』, 『OMi ユーザ・ガイド』, 『OMi 拡張性ガイド』, 『OMi コンセプト・ガイド』にまとめました。RTSM ドキュメント・セットは、ドキュメントの範囲を変更せずに更新されています。
- **スライドショー** : 直感的なスライドショーで製品の機能を紹介します。たとえば、エージェントの状況チェックについてのスライドは、オンライン・ヘルプの次の場所で見ることができます。
【管理ガイド】 > 【セットアップと保守】 > 【モニタ対象ノード】 > 【状況チェックの設定】 > 【エージェントのみのチェック】
- **QR コード** : 各 OMi ドキュメントの最後のページにある QR コードがあります。ぜひご利用ください。

このリリースで変更された機能

- **Groovy 2.2.1** : Groovy がバージョン 2.2.1 に更新され、Groovy の新機能をスクリプトで使用できるようになりました。なお、Groovy 2.2.1 の構文の変更により、スクリプトの更新が必要になる場合があります。

Groovy スクリプトのデバッグの詳細については、OMi オンライン・ヘルプの [【拡張性ガイド】](#) > [【Groovy スクリプト】](#) > [【ベスト プラクティス】](#) を参照してください。

- **イベント API の変更** : イベント API で、`com.hp.opr.api.scripting.Event` タイプに変更がありました。 `getAssignedUserId()` および `getAssignedGroupId()` メソッドの戻り値の型と、 `setAssignedUserId(userID)` および `setAssignedGroupId(groupId)` メソッドのパラメータが、数値から UUID 型に変更されています。

Groovy スクリプトでは、キーワード `def` を使用して、これらのメソッドで使用する変数を宣言できます。これらのメソッドで `int` 型または `long` 型を使用すると、エラー (`GroovyCastException`) が発生します。

- **イベント・フィルタ (exists テキスト演算子)** : 新しい `exists` 演算子は、指定した文字列のカスタム属性を含むイベントを表示します。たとえば、`Sample exists` を使用すると、カスタム属性「Sample」を含むすべてのイベントが表示されます。
- **PDF ヘクスポート** : [PDF ヘクスポート] ボタンは削除されました。この変更により、[ダウンタイム管理]、[ビジネスルール]、[KPI]、[ショートカットメニュー]、[CI あたりの KPI と状況インジケータのカスタマイズ] などの一部の UI コンポーネントが影響を受けます。
- **JMX コンソール・ポートの変更** : アプリケーション・サーバの JMX コンソールの URL が `http://localhost:29000` に変更されました。OMi 10.00 では、HTTP JMX コンソールはすべてローカル・アクセスのみ可能です。

JMX コンソールの詳細については、OMi オンライン・ヘルプの [【管理ガイド】](#) > [【追加設定】](#) > [【JMX コンソール】](#) を参照してください。

OMi のポートの詳細については、OMi オンライン・ヘルプの [【管理ガイド】](#) > [【追加設定】](#) > [【ポートの用途】](#) を参照してください。

インストール

OMi 10.00 のインストール・ファイルは次の場所にあります。

HP_OMi_10.00_for_Linux.zip

HP_OMi_10.00_for_Windows.zip

Operations Manager i のインストール手順については、『Operations Manager i インストールとアップグレード・ガイド』を参照してください。

1. OMi 10.00 のインストール・ファイルとドキュメントが含まれている .zip ファイルを解凍します。
2. [Documentation] フォルダを開きます。
3. OMi_Install_and_Upgrade.htm をダブルクリックして、『OMi 10.00 インストールとアップグレード・ガイド』を Web ブラウザで開きます。

『Operations Manager i インストールとアップグレード・ガイド』には、OMi のハードウェアおよびソフトウェアの要件が記載されています。

注意事項と制限事項

問題および制限事項は、変更要求番号 (QCCR) で示されます。公開されている不具合の詳細については、<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスするか、HP サポート担当者へ直接お問い合わせください。

OMi

タイトル: OMi10.00 ユーザ・エンゲージメント: イベント処理から業績がトリガされない (QCCR8D34746)

説明: ユーザ・エンゲージメントの業績がトリガされない場合があります。原因は、業績に関する通知が内部のキューに残っているためです。

回避策: 該当するユーザのユーザ・エンゲージメント参加を無効にしてから、再度有効にします。

タイトル: 設定ウィザードで、管理データベースの標準設定値が表示されない (QCCR8D36058)

説明: 設定ウィザードで、管理データベース (SQL Server, Oracle, PostgreSQL データベース) の標準設定名が表示されません。

回避策: ウィザードで値を手入力します (たとえば「mgmt」など)。RTSM およびイベント・データベースの標準設定値は正しく設定されます。

タイトル: OMi10.00 のローカリゼーション: **【管理】 > 【セットアップと保守】 > 【インフラストラクチャ設定】** での複数言語の使用 (QCCR8D36017)

説明: **【インフラストラクチャ設定】** のファウンデーション設定の RTSM セクションが、クライアントのロケールではなくサーバのロケールに基づきローカライズされます。

タイトル: ノード・エディタ: DNS ルックアップが NXDOMAIN で終了しない (QCCR8D35989)

説明: **【モニタ対象ノード】** の UI で、存在しないホスト名またはドメイン名をノード・エディタに入力すると、進行状況を示すインジケータが進まなくなり、エラー・メッセージも表示されません。

回避策: ホスト名またはドメイン名を確認します。正しい名前を入力するか、またはブラウザの再ロード機能を使用して UI を再ロードすると、通常の状態に戻ります。

タイトル: システム名 (SYSTEMNAME) が IP アドレスとして渡され、インスタンス (INSTANCE) がホストの完全修飾ドメイン名 (FQDN) として渡されると、CI のグラフを描画できない (QCCR1A90579)

説明：システム名 (SYSTEMNAME) が IP アドレスとして渡され、インスタンス (INSTANCE) がホストの完全修飾ドメイン名 (FQDN) として渡されると、グラフ作成コンポーネントでは CI のグラフを描画できません。

タイトル：CI が複数のデータ・ソースのモニタ対象になっていると、パフォーマンス・グラフ作成ウィザードでグラフを作成するためのメトリクスを追加できない (QCCR1A177733)

説明：[パフォーマンス グラフ マッピング] で複数のデータ・ソースのモニタ対象となっている CI のグラフを設計する場合に、1 つのデータ・ソースしか表示されません。パフォーマンス・グラフ作成ウィザードでは、この CI のすべてのデータ・ソースを基にメトリクスを追加することができません。パフォーマンス・グラフ作成ウィザードは、複数のデータ・ソースの表示に対応していません。

回避策：

1. **【アプリケーション】 > 【オペレーション管理】 > 【Performance Perspective】** に移動します。
 2. **【View Explorer】** ペインで、複数のデータ・ソースのモニタ対象となっている CI を選択します。
 3. **【Performance】** ペインで、**【データソース】** を選択します。
 4. グラフを作成し、そのグラフのドロップダウンにある**【設定】** オプションをクリックします。これで、グラフのメトリクスを追加できるようになります。
-

タイトル：VMware イベントからパフォーマンス・グラフ (CI) を開始すると、似た名前の VM のメトリクスがグラフに表示される (QCCR1A118759)

説明：仮想マシン CI のグラフを開始すると、名前が似ているすべての仮想マシン CI のグラフが描画されます。

回避策：不要な仮想マシン CI のグラフを閉じてください。

タイトル：グラフ・ファミリー名の大文字と小文字が区別されない (QCCR1A177763)

説明：作成するグラフのグラフ・ファミリー名が既存のグラフ・ファミリーと同じ (ただし大文字と小文字の違いがある) 場合、そのグラフは既存のグラフ・ファミリーに属するものとして作成されます。たとえば、「ABC」というグラフ・ファミリー名がすでに存在するとします。「abc」という名前のグラフ・ファミリーに属するグラフを作成した場合、このグラフは既存のファミリーである「ABC」にのみ追加され、新しいグラフ・ファミリー「abc」は作成されません。

タイトル: アップグレード/データの移行: 接続サーバのオペレーティング・システムが移行されない (QCCR8D35820)

説明: OMi10.00 にアップグレードした後、どの接続サーバでもオペレーティング・システムが設定されていない状態になります。

回避策: 移行した接続サーバをアクティブにする際、接続サーバのオペレーティング・システムが正しく設定されていることを確認してください。

タイトル: Red Hat Enterprise Linux 7 で Data Flow Probe をインストールできない (QCCR1H97547)

説明: Red Hat Enterprise Linux 7 で Data Flow Probe をインストールできません。

回避策: Data Flow Probe (DFP) をインストールする前に、libsasl2.so.3.0.0 から libsasl2.so.2 へのシンボリック・リンクを作成して、DFP の PostgreSQL 9.2.2 で libsasl2 ライブラリを検出できるようにします。例:

```
cd /usr/lib64/
```

```
ln -s ./libsasl2.so.3.0.0 ./libsasl2.so.2
```

これで、シンボリック・リンクが作成されます。

タイトル: 単一サーバ環境へのアップグレード: ダッシュボード・ページが作成されない (QCCR8D36140)

説明: アップグレード時に組み込みの 9.2x UI コンポーネントが削除されるために、ダッシュボード・ページが表示されません。新しい OMi は、プロセスの後半にアップロードされます。削除された OMi コンポーネントのいずれかにダッシュボード・ページが依存しているため、エラーが発生します。

1. <OMi_HOME>/HPBSM/conf/uimashup/import/errors に移動します。
 2. [Components] , [Events] , [Pages] のすべてのファイルを、../toload/ 以下の [Components] , [Events] , [Pages] にコピーします。
 3. OMi を再起動するか、ゲートウェイ・サーバで http://localhost:29000 から JMX メソッドを呼び出して、UIMDataLoader を検索し、start() メソッドを実行します。
-

タイトル: LDAP: スーパー管理者が存在しなくてもユーザがシステムを設定できる (JMX コンソールからのみ回復可能) (QCCR8D36118)

説明: 混合認証モードが無効になっていて、かつ次のいずれかに該当する場合:

- スーパー管理者権限を持つ LDAP ユーザがシステムに存在しない
- LDAP のスーパー管理者ユーザは存在するが、すべての LDAP 接続が無効化されている

JMX コンソール経由で混合モードを再度有効にすることが可能です。

回避策: JMX コンソールから混合認証モードを有効にして、ビルトイン管理者で OMi にアクセスします。

- `http://localhost:29000` を使用してサーバで直接 JMX コンソールにアクセスし、管理者としてログインする
- `Foundations:service=users-remote-repository` を選択する
- `IsMixedAuthenticationModeEnabled` 属性の値を `true` に設定する

ビルトイン管理者、またはその他のローカル・スーパー管理者ユーザとして OMi にログインしてください。

タイトル: LDAP: LDAP ユーザとして同じログイン名を持つローカル OMi ユーザを作成できない (QCCR8D36157)

説明: LDAP ユーザとしてのログイン名が同じで、それらの LDAP ユーザが OMi にログインする場合、当該ユーザを別々のローカル OMi ユーザとして作成することができません。

回避策: OMi で LDAP 設定を行うときに、OMi へのログインがサポートされている LDAP ユーザの UUID 属性として同じログイン名が設定されているローカル OMi ユーザが存在しないことを確認します。

タイトル: VCRdist がインストールされていない場合に Apache が起動しない (QCCR8D36160)

説明: この問題が該当するのは、OMi 内で Apache が Web サーバとして使用されている Windows システムのみです。

回避策: OMi を設定する前に、「Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ (x86)」をインストールします。

1. ブラウザを開いて `http://download.microsoft.com` に移動します。
2. 検索バーに「Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ (x86)」と入力して検索します。
3. 「Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ (x86)」をダウンロードします。ダウンロード・ファイル名は、通常は `vc redistrib_x86.msi` です。
4. `vc redistrib_x86.msi` をインストールします。

タイトル: 設定ウィザードでは RTSM スキーマの標準設定のテーブルを使用できないため、OMi インストールで使用されるデータベース・スキーマを提供するデータベース管理者向けのスクリプトが正しく機能しない (QCCR8D35683)

説明: OMi をインストールするユーザにデータベースへのアクセス権限が付与されていない場合、データベースを生成するためのスクリプトが OMi のインストール時に提供されます。これらのスクリプト・ファイルをデータベース管理者に送信すれば、データベース管理者がテーブルをインポートす

る際に使用できます。その後、OMi をインストールするユーザは、設定ウィザードで**接続オプション**を使用してスキーマに接続することが可能になります。

しかしデータベースへの接続を試みると、設定ウィザードに次のメッセージが表示され、エラーになります。

操作が失敗しました。詳細はログ ファイルを参照してください。

詳細:

```
com.mercury.infra.configserver.exception.InvalidSchemaException:The specified schema is not valid!
```

回避策: 利用可能な回避策はありません。

タイトル: ユーザ・エンゲージメント: 参加者データをリセットしても、エキスパート・スコアリングの平均アクティビティ数がリセットされない (QCCR8D35551)

説明: ユーザ・エンゲージメントの設定時に、参加者データのリセット操作を行うと、全参加者の完了した業績および進行状況の情報はすべて削除されますが、[エキスパート スコアリング] 管理ページの平均アクティビティ数の情報がリセットされません。

回避策: 特定のアクティビティの平均アクティビティ数の情報は、次の場合にリセットできます。

- 該当するアクティビティを完了した参加者全員が、各自のプライバシー設定で履歴を削除している

または

- ユーザ・エンゲージメント管理者が、該当するアクティビティを完了した各参加者の参加データを、参加者ごとに個別に編集しリセットしている
-

管理パック

タイトル: OMi 管理パック SAP 版で検出された SAP System CI に重複がある (QCCR8D34125)

説明: OMi10.00 管理パック SAP 版からのディスカバリがあるときに、SAP System CI で SAP ABAP および SAP J2EE ドメインの調整ができません。詳細については、OMi 管理パック SAP 版に関する QCCR8D34125 を参照してください。

回避策: エンリッチメント・ルール **SapSystemReconciliation** を有効にします。手順は次のとおりです。

- [管理] > [RTSM 管理] > [モデリング] > [エンリッチメント マネージャ] に移動します。
- ルート > [Operations Management] の下の [SAP] フォルダに移動します。

- エンリッチメント・ルールの **SapSystemReconciliation** を選択し、[プロパティ] をクリックします。
- [ルール的一般属性] に移動し、[ルールを有効にする] チェック・ボックスを選択してルールを保存します。

特定の OMi10.00 管理パックの詳細については、OMi10.00 管理パックごとのリリース・ノートを参照してください (<https://softwaresupport.hp.com> で入手できます)。

BSM Connector

タイトル: BSM Connector: [標準設定] ページで [クローズ済みステータスとして送信] オプションを更新したときに、イベントがクローズ済みステータスとして送信されない (QCCR8D36082)

説明および回避策: ポリシー・ルールでイベント属性の [クローズ済みステータスとして送信] の標準設定値をオーバーライドしようとしたときに問題が発生します。

1. 標準設定値が「1」、つまり [クローズ済みステータスとして送信] の場合、「0」を入力することはできないため、ルールでこの設定を無効にすることはできません。この場合は、標準設定値を無効にする代わりに文字列「false」を入力します。
2. [クローズ済みステータスとして送信] の標準設定値がデータまたはマッピングの参照である場合、「0」を入力することはできないため、ルールでこの設定を無効にすることはできません。この場合は、標準設定値を無効にする代わりに文字列「false」を入力します。
3. [クローズ済みステータスとして送信] の標準設定値が、ルールが含まれる既存のポリシー内で「0」から「1」に変更された場合、この設定は各ルールに自動的に適用されないため無効です。
4. ルールで [クローズ済みステータスとして送信] の値を明示的に設定していない場合は、そのルールは無効とみなされます。こうしたポリシーでは、ステータスが「オープン」の OMi イベントはこれらのルールに基づいて発生します。この場合は、クローズされた状態の OMi イベントを生成する [クローズ済みステータスとして送信] の値をルールで明示的に設定します。

タイトル: BSM Connector **スタンドアロン・インストールのみ**: Linux: スタンドアロン構成の準備ができない (QCCR8D36134)

説明: Red Hat Enterprise Linux 7 で BSM Connector を **スタンドアロンで使用** できるように設定する際、提供されるスクリプト「`prep_bsmc_sa.sh`」がエラーになります。これは、RHEL 7 に必要な依存ライブラリが含まれていないため、事前に作成された openssl バイナリが実行できないことが原因です。

回避策 : 任意のパッケージ・マネージャを使用して、必要な依存ライブラリをインストールします。ライブラリは、**Red Hat Enterprise Linux 7** 配布用 DVD または Red Hat ユーザ向け Web サイトで入手できます。必要なライブラリは、次のコマンドを使用してインストールできます。

```
yum install libstdc++*i686*
```

依存ライブラリのパッケージのインストールが完了すると、「prep_bsmc_sa.sh」は正常に実行できます。

ドキュメントの更新情報

このドキュメントの最初のページに、次の情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号
- ソフトウェア・リリース日

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、[HP ソフトウェア製品マニュアル](#)の Web サイトをご利用ください。

ドキュメントを取得するには、次のように選択します。

1. 製品名。
2. バージョン・リスト。
3. オペレーティング・システム。
4. 優先言語。
5. ドキュメントのタイトル。
6. **[開く]** または **[ダウンロード]** をクリックします。

PDF 形式 (*.pdf) のファイルを表示するには、Adobe® Reader がインストールされている必要があります。Adobe Reader をダウンロードするには、[Adobe](#) の Web サイトにアクセスしてください。

ドキュメントの正誤表

OMi

次のドキュメントの項目に誤りがあります。

タイトル: コンテキスト・ルートを使用してシステムが構成されている場合に、OMi ユーザ・インタフェースへのヘルプ・リンクが機能しない (QCCR8D36114)

説明: コンテキスト・ルートを使用して構成されている OMi インスタンスでは、次のことが起こる可能性があります。

1. 全般的なヘルプを開いて、OMi ユーザ・インタフェースへのリンクが含まれているページに移動します（たとえば、**【管理ガイド】 > 【操作コンソール】 > 【ビュー マッピング】 > 【構成アイテム タイプへのビューのマップ方法】**）。
2. スクリーン・ショットに示されているように、**【ビュー マッピング】** リンクをクリックします。
3. このリンクにはコンテキスト・ルートが含まれていないため、404 エラーが表示されます。

タイトル: **【RTSM 管理】** の UI ページのヘルプ・メニューに、UCMDB ヘルプ・ページへのリンクが含まれている

説明: **【RTSM 管理】** のページのヘルプ・メニューに、UCMDB ヘルプ・ページへのリンクが4つ含まれています（**【UCMDB ヘルプ】**、**【ユニバーサル・ディスカバリおよび統合コンテンツ ヘルプ】**、**【UCMDB ベスト プラクティス】**、**【UCMDB クラス モデル】**）。

これらのリンクをクリックするとダイアログ・ウィンドウが開きますが、リンクは機能しません。

回避策: RTSM ヘルプを表示するには、OMi の **【ヘルプ】** ボタンをクリックして **【全般的なヘルプ】** を選択します。OMi ヘルプの目次で、**「RTSM ガイド」** を選択します。

タイトル: RTSM ヘルプの一部のリンクが機能しない

説明: 次の場合に 404 エラーが表示されます。

- **【RTSM ガイド】 > 【はじめに】 > 【Run-time Service Model (RTSM)】 > 【ログ ファイル】** のトピックを開こうとしたとき
- **【RTSM ガイド】 > 【モデリング】 > 【モデリング】 > 【モデリング スタジオ】 > 【レポート設定の定義方法】** のトピックで **【Show me】** リンクをクリックしたとき

ローカリゼーション

HP は、Operations Manager i 10.00 のローカライズされたソフトウェアを以下の言語で提供します。

- 英語 (en)
- フランス語 (fr)
- ドイツ語 (de)
- 日本語 (ja)
- 韓国語 (ko)
- ロシア語 (ru)
- 簡体中国語 (zh_CN)
- スペイン語 (es)

ドキュメントのフィードバックの送信

このドキュメントに関するご意見は、電子メールでドキュメント・チームまでお寄せください。このシステムで電子メール・クライアントが設定されている場合、上記のリンクをクリックすると、件名の行に次の情報を含む電子メール・ウィンドウが開きます。

リリース・ノート（Operations Manager i 10.00）に関するフィードバック

フィードバックを電子メールに追加し、[送信] をクリックしてください。

電子メール・クライアントを使用できない場合は、上記の情報を Web メール・クライアントで新しいメッセージにコピーし、フィードバックを ovdoc-asm@hp.com に送信してください。

ご意見ありがとうございます。



OMi にアクセス!